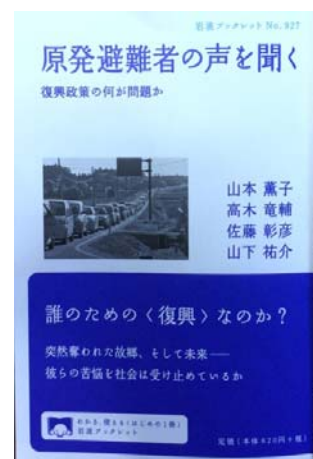


原発避難者の声を聞く

表題と写真は岩波ブックレットの近刊である。「復興政策の何が問題か」という副題がつく本書は「原発事故に関わる記憶の風化が懸念される今だからこそ、避難者のことばに深く耳を傾け、問題の本質を問うことが必要だ」と述べる。本書に登場する避難者のことばは、2012年から13年にかけて開催された「とみおかタウンミーティング」の場で発せられた。しっかりと心に刻むために、避難者のことばを何回かに分けて書き写していきたい。



- ・毎日家の横を通ってくるわけですけど、ローンだけ払っている家ですね。「あ、無事だな」と思いながら。いやあ、辛いですね。(世帯主)
- ・僕のところは(線量が)高くて、除染(を)ちゃんとやないと20年やったら食べ物できないから。そんな土地守ってもしようがない。(世帯主)
- ・結婚して富岡に住んで「自分が一からつくったママ友のつながりを全部なくしてしまった」って感じ。(子育て女性)
- ・今回の震災における状態というのは、本当にすべてのものを失ってしまっている状態が続いているのではないのかなと思っています。(世帯主)
- ・自分が生まれた素晴らしいふるさとして「仕事を辞めたらあれもやろう、これもやろう」と思っていた将来の夢も失ってしまいました…それが一番悲しいです。(子育て女性)
- ・5年後、もし町に帰るとなったとき、(自分は)40歳を超えちゃっているから、転職できないし、どうしようもないです。(世帯主)
- ・「死んで、どこで葬式するんだべ」なんて、そんなところまで子どもらに迷惑かけられないなと思ったりとか……。(高齢者)
- ・両親は「孫と離れたくないから帰らない」といっているが……。 (本当は) 帰りたいのに嘘をついたまま避難先で死んでしまうのか、とも思うことがある。(世帯主)
- ・やっぱり家族(が)一緒に住むというのは大前提ですね。(世帯主)
- ・自然なのは、お父さんがいてお母さんがいておじいちゃんがいておばあちゃんがいて、地域のコミュニティがあるという環境。(世帯主)
- ・仕事でこっち(福島県内)に来ちゃっているので、なかなか(県外で暮らす)子どもの顔が見えない。子育てという視点からいえば妻に任せっきりになるわけで、片親で育つようなものですから、そういった影響というのは(子どもの) どういったところに出るのか(心配です)。(世帯主)
- ・(世帯分離のため)4カ所で生活、四重生活になりますので、経済的な面も苦しいです。今の補償がどこまで続くのか。(世帯主)

・先が見えないような状況が続いているというのが悩み。(離れて暮らす家族の家に行くための) 移動の往復がけっこう疲れることと、二重に生活費がかかり、家計に響くという悩みを抱えている。(世帯主)

(2015年6月17日)